

環海異聞

附三

八

富士山文庫

290.9

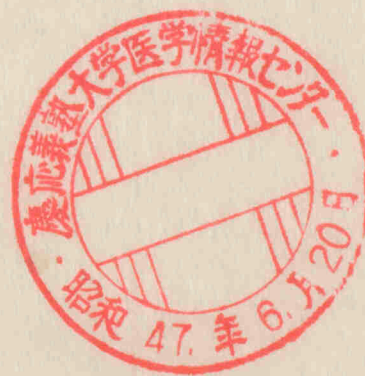
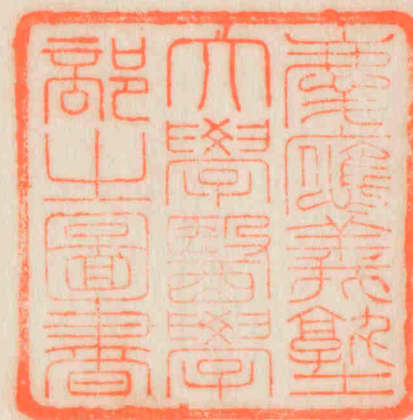
Ka

6

880
K

No 26

12 K 44



富士川文庫

169

No. 26

海環

環海異聞卷之八

言語第二十三

天文

天

十子一ホー

ナ。といふるをこよなる群多一假令ハ天を
子一ホーるるをナ子一ホーといふ地をナ
ムラナるるをナジムラハオストロナるる成
ナオストロといふ源客等初めてつきたる

地理

地 全 ミムラ
ナミムラ

又國のりも 日本 國
ニッポンシムラ

國 和 蒙 國
ジムラ カランウケ ミムラ といふ

都會街衢 コーロー

凡そ都會を為す所をいふ街のりもかく
いふれり イルコーツカもゴーロといふペトル
ブルカハホロミヨゴーロトなつと稱せり
ホロミヨをぬるり 英れり

山 ソーブカ 林 ソーブカ 砂 ビツソーカ

石 カーメン
カシン 圃 オロロデ 橋 モース

橋をち橋石橋ともいへり 所をも橋を
五子間程有おも橋をさるり

墓 ナゴラ 井 コロゼツ 河 ライカア
アイシカ

海 モーリヨ 湖 アナ、ソーリ 海水 モーリツケ
ラヲチイ

波 ポロン 港 カワニ
大光
ガラニ 渚 オストロ

火災 ボヤツツア
又ホヤリ氏 塵 ソーロ 外國 エノスタシメ

階 ミ 穴 デラ 戰場 カメジ
シバイ

東 ヨイノダアツイルコーツカマ 東風 コントスト云

西 サーバリノ 南 ユーシヨ 小セイウエレ

木 セリツ 火 オコ 土 トニ出ツ

金 ワーロー 水 ウラノイ 大光ボタイ 銀 セレブロ

鐵 イレツノ 銅 ノイツナ 硫黄 エイラ

燧石 ケレンシ 鹽 ソリ ムラ 白石 肥後白礬 白礬 礬屋

イツウエースカ 石灰 辛別ニ記ス

モイラ 石酸 辛別ニ記ス

諸國地名本通稱

ケタイツケ 又キタイスコイ 支那唐土

按魯西亞人支那を呼ひケタイツケ又キタ

イスコイといふ スコイを國とも例那

ともいふや彼人諸國の名をふく

スコイと稱するもの多し 和華新撰

輿地略記沢路回支那の事をキタイ又

カタイトといふハ古云フ 韃靼の也

一國ありと又書は支那の地分り
二部とも水はありものを 山東 サントニ
山西 サンシー 陝西 センシー 河南 ホーナン 四川 スーセン 北 六部

と統ふ南は有わとマンジンと稱し地の
統部を統ふ

マンジンと六部 鄭の人といふより水へより
南人を侮稱する 語といふより或ハ
マンジンと蠻人といふよりや

けキタイ又カタイハ漢古語書は元朝の本の

契丹よりキタイの音訳字なるト契丹

ハ五代より宋の中葉と本玉の地あり

遼より十六列の地を有り一國號を又大

遼ともいふは附山東陝西河南等の地を

あへて其の地を有り金元の二代継て

あり 金ハ女直 遼の附より大か

上の六部の地を有り附はありて

南朝を侮つて蠻人といひる人

たのめく金元の二代遼は継てを承る

小韃よりハ支那のものとあつて契丹と云へ
又轉してカタイスといひしハ魯西
亞人韃地を云ふも一併せるの日ハは從來
一々キタイハ稱呼を以て支那全列を
統へてキタイスコイと後稱するものなり
一と思はる契丹の地實ハ本國東韃の内
とて女直よりハ西は所をへ
因云魯西亞の年の餘ハ西域天竺地方を
始とて歐邏巴洲迄ありを凡そ

漢古の國號をニイナ

支那
緬那

と稱ふこれ

往昔秦始皇の時に世の秦の字の多を
傳へてかく稱し事なりとロイスミス
といふ人の撰書中ハ云へたり我輩は稱
を考へせしよりハ秦書林のけの名
を以て稱せるあるへといひしハ
果してハ西域を指しするハ西域事
を以てもニイナと稱せる由とて支那
緬那 震旦等の名は字あり因

顧ふはあゝ初め事な地ふはミナのを
傳えあれをあふふはあゝはあゝ彼諸
あゝあゝ古来漢書はあゝ定めて稱
ありあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
けけあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
も有りあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
明今の漢朝までもあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

ガラニツケヌガラニヤ

阿蒙院

大光ガラニツ

スウエーツケ

スウエツミア
雪際亞

ハラニツースケ

フランクス
拂扁察

大光フランツ

アンゲリ

アンゲリア
漢人利亞

ホルトガリ

ホルトガル
波尔特瓦

子イノツ

セルマニア
入尔瑪泥亞

トルカ

トルク
トルカ

イスパン

イスパニア
伊斯把你亞

タルタ

タルタ
難而難

光太史曰 アミシャーツカの水は阿るを
アンデレイスカといふ

チヨリノイ モーリヨ 黒海

秋の間の湖水ありつめるなり三月

より秋七月迄は六軍船を繋ぎ置くと

軍たり

時令

年

ゴヲ

今年

シヨオガア
ゴヲ

来年

ボヲトミテ
ゴヲ

一月

オゼン
ノイセツ

一年

オゼン
ゴヲ

二年

ゴトワ
ゴヲ

去年

ホロシラ
セオ

一時

オゼン
チヤアス

半時

ボロウイナ
チヤアス

晝

ゼン

夜

ノヲチ

朝

ウートル

晩

ウイチル

日ノ半

ホロチイーチ
ゼン

夜ノ所けるスウエタ

今日

シヨウラジニ

明日

チヤラス

明日

ザフクラ

一昨日

ラレチヨトジ

明後日

ボシテ
ナフタラ

今

ノシチウ

春

ウイスノ

夏

ライタ

秋

オーセン

冬

シマ

イヌワリ

名

ヘツ
テ
リ

名

マルタ

アブライリ

五月
マイ

イロ
イヨ
ノ

七月
イコリ

八月
アヲゴシ

ア
ン
テ
ヤ
ブ
レ

十月
ス
チ
ア
ー
ズ
十
月
ノ
ヤ
ヅ
レ

十二月

レカラミ

二月 二十日 二十一日 陽月

多岐所り 一年ハ 四月二十七日 所りト
子 あれ
三百

七十一日
水部殿別々
望月す
若望月を

今五十七年ぬゑあるとれりあのこと

月ハ多くハ我方の十月ニ所シ文化元年

甲子十二月十日午後旅宿中オロミア

氷月元日なりき
漂流の年の

曆人等不持せしうともそ後ハこれ

るちねの知るへき松水―袖より推して

曆日と定免三日月十五夜よりあけ

一 公是へ〜てを載せり甲子のこー

九月七日と見え〜長崎の津より

六日とあり〜十三ヶ年の四一日の迄

なり〜

曆ハ彼西暦くは不持モ横文字版
固より各別主たる年号といふ

りぬ〜古来の年教を以て〜稱せられ年号のむ
まや 文化甲子十二月より乙丑迄とハ彼曆教一千

八百四十年
より

按ハ羅旬十二ヶ月の名 正月 ヤニユアレイ

二月 マルチウス 三月 マイウス 四月 エリウス

五月 セブララベル 六月 イムベル 七月 ヘデリアリウス

八月 アツフリル 九月 イコミウス 十月 アウグスチウス

十一月 ナクトヘル 十二月 デイセムベル けふより

略〜あるもの成へ〜毎月の名。殆ど

相似するもの有りといへともけし彼と其

月並大ひは多えり今姑〜これを附

そ中或ハ源人等の見え違〜

ありやと此日の考る備ふ

人倫 官職諸名等ハ本條ニ載ル

人

チヨロウエイカ

男

ムセキ 大光ムシカ

女 エシシナ

大光セシシナ

君

クシヤイナ

僕

オロボシエカ

父

ハチシカ 大光 バチュンカ

母

マトシカ 大光 マネシカ

おれいどうさまかゝさまと云ふ

父親

オセツ オセイワ 大光 オラツ

母親

マリーチ

祖父

シヤジシカ

祖母

バブシカ

兄

ブラシツ 大光 大 ボリシヤイ
ブラーラ

弟

ブラー 大光 マーリシヤ
ブラーラ

姉

セストラウサ

妹

セストラ

娘

ドーチ原の女をいふなり他の娘をいふ時ハセイフカといふ

伯父

ジヤジヨシカ

伯母

チヨフトシカ

妻

セエナ、
エナ、

人の妻をいふ時ハクシヤイカといふ某の門下と云ふ

夫

ムウシ

姪女姪

オロシヤ

又凡そ親類
ともいふ

孕婦

ベシホヲタ

產婦

オロセル

老

スクラ チヨロウエーカ

少

モノトイチヨロウエーカ

愚

ドラアカ

聰明

オシノエ

朋友

タツラシ

帝

イムベラトリ

后

イムペレテツサイ

王

ゴソタリ

おれハ帝といふも王といふもあつて
高橋といふも王といふもあつて

諸侯

コセリ

奉行

エナラウ

書記役

改メオリタリ

通事

ペレヲチキ

醫

ドクトル

兵士

チノミカ

客

ホロストイ

宿

バカトヨ

貧

ベエツナ

善人

ホロシヨ
チヨロウ子イカ

悪人

ホタヤ チヨロウエーカ

娼 ホロタスノセエフカ

娼夷人 モクナトウ

又ホロタスケチサロウイ
カネは毛の生えうると
いふるなり

飛脚 コレヤロ

仕立屋 ホロツノエ

娼淫 コハシナイジ

小習師通 オチイテ

小習子 オチーミカ
凡て弟子をオチ
イミカといふ

商人 ユベイツ
本通
大工
ホロリニカ

石通 カーメシキ

馬士 ユミシキ
大光エミシキ
高船
モーソヨコソ

官船 ストロマン
舟吏

師 オチイテレ

町人 ノシマン

酒風漢 ヒヤミシガ
ナマヨイ

歩卒 サウグ

使節 ホスラミシカ

大和尚 アレヘライ

夷男 カラシイワ

夷女 カラサイツサ

眼鼻髪
チリフコラ
黒い男子

病人 ホリノ
大光ホリノ

乞児 ケレスタラシ
モノモライ
ポースル

亡目 スロホーイ

髻 コロホーイ

跛 ホカモイ

庖人 ホーワリ
ミヤクスル人

船師 カベタン

水主 マトロス

身體

舌 コノワ

眼 ガサア

耳 オ・ホー

口 ローハ

鼻 ノース

髪 オーロス

胸 トシヤ

後 ベレホ

手 オルカ
オロケ
フローケ

足 ノーケ

皮 コーシヤ

胛 コーシテ

面 レツザ

脣 グトハ

齒 ツーバイ

尻 ゴーパ

乳汁 モロコ

陰茎 ボイ

陰門 ビツタ

指 ゴースト

鬚 ホルク

血 コロフ

小便 シヤノシ

涕洟 ソビヤーカー
ナミル

舌 エツキ

腰 シベナ

鯁 ペリカ

兒女 コシカ
小戸

膝 オク子ナ

猢猻 ケシケイ
ラリク

發汗 スホセル

尻 ビヨリノイ

毛 セイルツ

乳 デーチカ

獺 ホーポー

陰囊 ムーゼイ

經水 ルーハーシカ

肉 ノヤス

肝 セイレツ
キモ

大便 サラジ

放屁 ベリトウ

居處宮室

家 ドーマ

庖樹 シモミア
タイ トコロ

窓障子 オコシカ

壁 ステナ

煙窓 トロハ
ケムタシ

獄屋 オストロカ

門 オロタ

坐敷 コーリレズ

戸 ジュウエル

硝子障子 ステタロオコシカ

砌 キリイシ
チツサリノカミシ

還所 カラクリカ
バシヨ

倉庫 アンバル
クラ

席 ホステイ
シキモノ

閨房 コロワシ卧床

窓戸 スクリン

柱 ストバ

階 ソーニンシザ

垣 サフポートー

浴室 パレヤ
フロ

奥市 アレバノ
オリヤー

酒店

カバカ

民家

ケレミアニ

寺

セシコレ 大光
ゼウサコ

乃寺

マノステライ

足財

銃

フラカ

登貢

ボーシカ

火炮

オレロキヤ

腰刀

シツバアカ

戕

トツポーロ

锯

ジライ

剪刀

イシニサ

刺刀

ペツワ

鞍

セツロー

帆

バロス

槁

マシタ

舵

ロウリ

セツワ——あるの脊はわけ人の膝をおよそ 荷鞍の来る似たりを
ワチカといふは荷をつけるうまは馬脊は仕掛たるものなり

破

ヤーコレ

緬

カナース

高船

ソーツナ

官船

ナデシタ

軍艦

カラツレ

御船

大中小なり

大を名なれりといふ破并は綴りしものむ中を

エロフカといふ陸の人何れも用ゆ小をヤーシキといひく

三艘ありある小をよ用ゆ

水車

カクルマ

風車

車

道中用ゐるハキビツカ市中

雪車

サンギ
リンケイ

字

ビレ

紙

ビレブマカ

墨汁

チリニチ

図

カリタ

布ヒツセ

張あり目算りて作る

書冊

キニイカ

笛

ドートチカ

吹テ火ヲオコス物ノト
チカト云ドチハ吹テん樂
の類よのす

琴 コーシケ有

胡弓 ケレプロ有

大鼓 バラバン

絲 マーツケ

綿 ブマカ

蒲垂 オジアラ

包袱 ボルトーカ

帽笠 シラツハ

三角帽 テレオロツ
ミラツハ

枕 ホトシカ 皮枕ハ蘭シト子の如きもの

杖心 ーブカ
ウカ

椅子 ストリヤ

輕錢ノ人不用長き腰押 スカミヤ

机案 食盤
ストウ

箱 ヤーシキ スントーカ
箱箱ノハル

鏡 セリカラ

眼鏡 オツチケ

時計 チヤスウ

法フシトラる ベチメン

鈴 コロコウリ

鈴 ザモーカ

鍵 ケルーテ

火笛 シヒセイ

燧ヒウチ オコニウ

麦藁イモ袋と コセリ

腰サカの 腰サカ カリマン

紙サカの 紙サカ ジミヨーカ

牙枝ヨウシ

名取草の先きの丸の形を教ふるもの
桜は新葉より 我々を助けるもの
我々を助けるもの

網 子ヲト

屋 庭を造築するハ キリペイシ
庭を造築するハ

井 コロゼツ
コロリツ

灶 ベイチ
大光ヘイチ

張鈔ハカ子 ヲセキナツサイ
紙鈔ハカ子 ヲセキナツサイ
大光

ビイシケ 我邦は今用る 将軍の如きもの
我々を助けるもの

コレトイケライ 十二ツ方ある子
十二ツ方ある子

ろり

骨牌 カルタ
三十三枚
あり
バライカ
三張の
数あり

メツタリ 金或る根より 用形は仍り
用形は仍り

英字の如き 型は入れ
型は入れ

イカタ

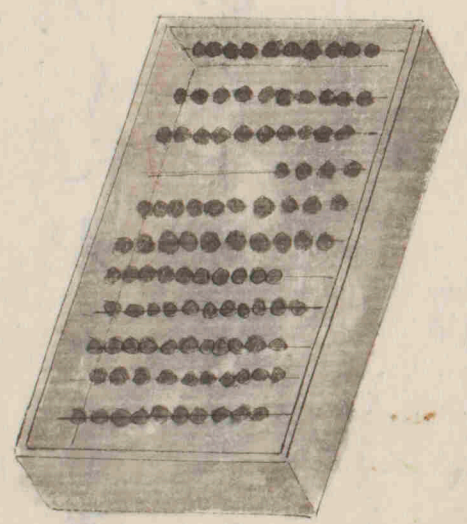
是由是宮より先陣より帰るものにて
 一人獲りけり拍の布より軍戦の
 おもそ尾より帰陣たる者凡そ何れ
 も一切を束縛する者の獲取よりして
 来自由すべき軍陣の如きものにて
 なるけり及使に船は借ひあつる者とも
 ありといへるまてけあを帰より先手
 光太史も帰朝の席よりより帰る来り
 彼に國中の人々これとそれと恐れ

しり

按之和葉書は此國のけあのみ多く哉
 せりとのあり 和葉はハノンダアリと

十露盤

シツチヤウ



我々の用と飛横の遠ひあり縦と云々
 玉を横したるはちくく玉ハナリ身は腹
 ハにツ玉なり柳の殺十部あり

衣服織服飲食

衣服飲食の名名條々おもしろくハ

くふおきす

衣後 ブラーチ 幌巾 テレピソザ
 のほききり 袖 オロカッ

礮 オセス 本椎 モノトウカ 碱 イコルカ

羅釘 ホッバリ カムバス 瓶 物ヲゴリセウカ 華碗 チャーシカ

鉢 トリユシカ 環 ストーフ 大姉すこグトーフ

小姉 スケラニコ 小姉 リヨシカ ちよこ スタカン

桶 カツーシカ 手桶 ウシヤタ 硝子 ステクロ

櫓 ボーシカ 煙管 ガンサ 焼あのみせと
 トロブコといふ

鼻煙 壺 タハケーリカ おせしる ゴシ 傘 名あえハナハ

蠟燭 シロゼイ 思ふれたり かくて 作ると云々 年脂を 作る 蠟燭を
 新用よのこを 是の夜 作るとする 時ハ あきとて

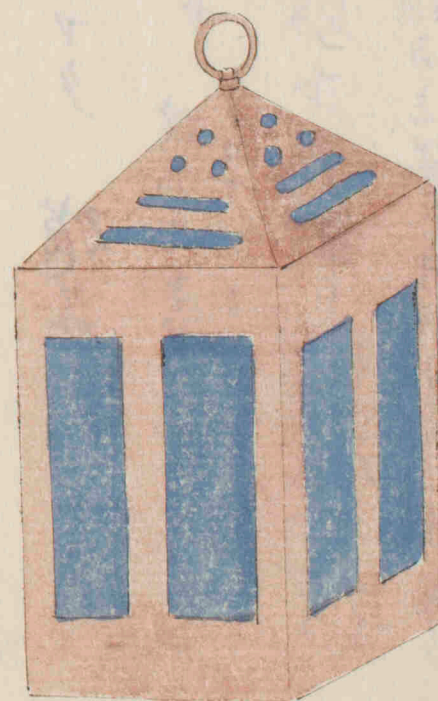
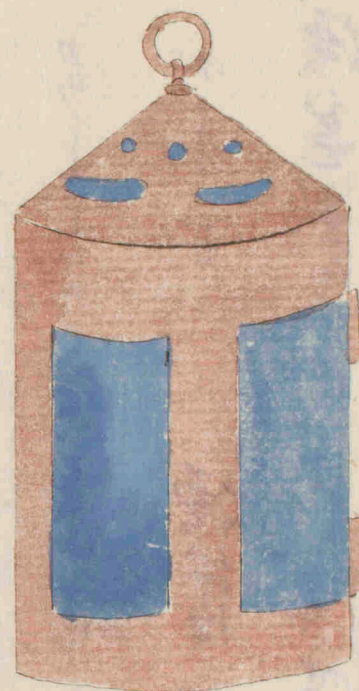
用ひす

燭臺

ホーシユウエシカ

提燈

ハナレ



ハナレ板硝子を仕するあたるおとを母をもちりたるおの

二種あり

帚

ワイニイカ

櫛

ゲレヘン

草袋
牛皮
ソマ

風領

カストカ

エリマキ

戒指

名玄

ユヒカ子

縮布

セウコ

木綿

タバ

綿布

ケタイカ

縮練

セウコ
ツケ

練

子イツケ

履紗

ソクノウ

羊ハラの毛糸を織る

履脊板

ハイカ

履紗は似る毛糸をとおとバイカといふ
源人常束の履はけあり

天鰯絨

ウエシウエト

緋履紗

カラスナ
ソクノウ

ハ練

カヌハ

鞠

ソーロー

菓子

ビラニカ

麦酒

クイナ

と好酒

オ、ツカ

砂糖

サトハリ

桑

チヤユ、
チヤイ、

苳餅

ケレプト
ケレプ

麦粉苳餅は作りしもの
はてケレプといふあり

女酒

エシシナ、オ、ツカ、を煮く耳き酒有りト云ふとに動む

ツレシ

燗酒の類

燗酒

ケレブコ
オ、ツカ

燗酒

タバコ

コーヒイ

木炭

飲食の類

シベリ

毒蛇の毒を
清く酒へ

牛酪

モロコ

邵

オ、クツス

モロコ
油

マスラ

乾菜

ワリイ、アレバ

新鮮

シウイン

魚と麦粉
包み紙焼

ペレケイ

酒

名不実

イルコウツカより
とるる

粘米のわさるの

乾菜

サフタフカ

朝飯

オビヤアタ

豆

パウシナイ

香食

オ、シーナイ

粥

カーシヤ

麦蕎麦の粉
マてつけ

言辭

草

タラワ

木

ゼリワ

花

スウトーシカ
クウトーコス光

実

セーミヨ

青

セリヨノ

黄

エモエ

赤

ア、ライ

白

ビアライ

黒

チヨリノ
チヨリノイ

耳

スツツカ

破

ケイスナ

辛

ゴリカ

苦

コリカ
辛と
同

鹹

ソーリヨノ

有

エイシ

無

子

九

ライワ

古

ポラワ

ツヤガウル

笑 スミヨツサ

大 ボタシヨ
ボリシヨイ

低 ニースコ

知 ツナヨ

不連 子プラマ

寝 スクワル

客 コシテ

強 アス

向方 トツチ
ドラ

肥 トストイ

小 マーリシコ

勝 ケーゲラル

不知 子ヅナヨ

寐 スツビウ

忘 ガポール

あうあうとらうら
ハシテベリシヨルとらう

名 子ナタ

我 ミニヤア

疲 ヲハヤ

る ウエ
ウイツツーカ

員 ポーイケラル

正連 マスク
ピラマ

又寐 又スノウと云

不念 子ザボワイ

主人 コシヤイナ

汝 テテハエ

私 ヤ
アサメサ

誰 クトウ

若者 ウエ

婚姻 スワツハ

交合 将接エホウ
将消魂ヒレト

接アルエビヤル 諸按ダイエツチ
サレローレヤ 己消スサーブラル
ダイハ貸セト
ウイ

貸セ サイメイ

借リタザイノル

欲 ホーチェー
オシイ

不欲 子ホチエー

以 ケ
シトバイ

詩 テホコセイ

書ク ビツシウ

讀 セタヨ

不連 ドーロケ

不連 ミヨウシウ

價をまけろといふ
オストピイと云 又
まけられぬをハ
子オストヒイと云

災 コビユウ

災 ツノ
ホタリル

與 エ
ボタリ

吞齋 スコポイ
ヨクノフカイ

性才 ツデク

名 アラツナ

泣く ヒラコイ

名 ザツコレ

力強 キ
ビルモノーコ

叱ル ハラニウ

忌テウ ニリウビ

社^{カキイ} ステツナ

驚 スボガル

踊 ビツサツ

又 オツヒヤーナ

作 オレゼル

オレセルハ生する人あるもの生するもの
又子の生れるものも生するもの

程^ル サセル

程^ル カラジイ

おと梅るものを大光目程
腹をカラジイといふ

家^ル ストロイル

私^ル ナム

呼^ル ズウエ井

勃^ク テレシユール

出^セ テタイ

浴 コバイ

洗^フ ハモヨ
洗^ヘ ハモエ

進^お ゴシテツサ

材木 レース

菊 トロワ

典^當 ザツクラト

煮^火 ソリイ

焼 ジヤーレイ

味 ソコス

美味 フコス ホロシヨ
塩梅おといふ

精進 ボーシナ

空腹 ゴールセ

食^時 分ハラ

縫 セイ

沈 オツト子ル

教 オチウ

尋 イヌカヨ

惣^ル ビー

罰 ゲライカ

痛 ボルノ

痒 ズジツザ

熱病 ゴリヤチカ

瘡^瘡 オ・スハ

瘡瘡をいふ花面の人うまこと云ハオ・スパペリ
リシヨルいもうねの人うまこと云ハオ・スパオツシヨルといふ

頭痛 ユノワボルノ

鼻^衄 ノースコロフ

牙^痛 ツシカ

強健 ケレブコ

下^痢 ハラシソース

缺^骨 名ふえ

唾 名ふえ

癩^病 名ふえ
は病者一人えをう

病^子 モゴ

病^子 モウシ

我^子 リ
卑ミル

丁寧アヨソ 雞有はさうする ホツコシノミテボラゴタリヨ
ナツトセイヤ あふはさうする

おをばりー れをいふ ホツコシノミテ ホラグザストイ
えきものころろを

私より モイホタル はれは外 ナツトロイヤ
され あさうする

何う カコイ 外へあさ ナヅワル 大小使はゆくをいふ
人の ナヨウエイカと云ふ

他の内は入るはえと ダラストイ 我より目とるる人へ對し
彼ー まゐといふを いふハワダリにといふ

久ーくは国はをねはせり タウノミエウグリカコワシヲエ エ人へ對し
るるるるるるるるるる はまといふこと

同ー を下徳の カコワシヲミ テバイ テバイとハこそいふこと
人よりよまを いふ後のもるる

あるー をさる テ カコワシヲミ

あるー も ウエカコワシヲミソダリ ワダリハあむる
はさるるるる 核といふむる

客 アハ ゴミテ ヘリミヨル 強う アハ ットウベリミヨル

新で はさる ヤスタイ 何て はさる チヨワスタイ

何ー チヨワ 友をさるるの あはさるる

何の はさる チヨワイ ズオリ

朝飯 オビヤダルニ 強へ オビヤダル

あー はさる リテ サゼ

酒を ウイナ ピイ 火山 モノコ クーミヤイ

茶を のんて チヤユ クーミヤイ

水と ウラテ ピイ ピイハ さるる

煙草を
のめよ
タバコレ コレハ 吃する
あつて
バーコレ

何てもあ
さういふれ
チヨワニボート ポコレ チヨワニハ 何とて も也

今より
今ヨラー ジニ
ホーロツノ

あの人ハ
いれまう
すこーレル
あまの
いふ
テーゴーレ

あの人ハ
いれまう
すこーレル
あまの
いふ
カンー ジイ
芝居

えまう
いひま
スモテレル
ブーレル

えまう
いひま
スモテレル
ブーレル

えまう
いひま
スモテレル
ブーレル

えまう
いひま
スモテレル
ブーレル

何
えま
ボエト トーケ

玩
えま
チヨロウエイカ

利口
えま
チヨウエイカ

いと
えま
エヤウユ

大
えま
子ポーメル

業
えま
子ドーマヨ

按
えま
ポスフヨ

客
えま
子テパイ オロカヨ

これ
えま
セチライテ
オーらいれ

ほろろれる モロナレゼーファイテ

ほろろれる 子モロナレゼーライテ

火箸を シビセイ イスカイ けろろ ヒオロブノ

何れのお コトーラ けろろ オンモノワイ

ろそでハ 子オレモノワイ つきもぬ おチニ

何れのお ストツトエ けろろ アイタカキナゾリヨ

これ何れ アイタチヨワ それい ドーロケ

何れのお チヨワセライ けろろ チヨワスモテレル

ろそハ ピーニ子 ホマタ 髪よける油

右云語一編ハ彼邦語彙分の一なるべし

む漂や等先達少遠或ハ彼古を記

するもの多るべし又此忘せるも多

き趣なり 彼人と親近せるの間ハ可なり

にも用も弁する程を對話をある様子

るれ其趣心未彼り多きをあるれり既

そを幸ふ及べるが故これより 設あて

記しするものも人忘失せりともく著

する事多し又周より所魚の族民少

元々疎漏——て是れ更き事をも時
あつても遺憾なりとあるは
云語の——の教へたり唯そ云辭
——是れ————を漫り
書集先代目姑く九つを分つて載せり
あれ亦名つる後前後改訂紀元
るも解多なる——是唯そ邦語乃一端
と知るは是るものといふ——相成質。
紀元の日け云語の二編は紀元語を以て終

日の字末よりして終——これハ彼等
は順の語初も終り忽ちの語はなりけ
まはす終せ——と思ふ事も多し
中かゝる——終り書記——所やま
まも有る——友は——とて正語と
る——かゝる————そ每語の傍に
或ハ大光と記せるるを後年伴舟の
船子大光を光太又うの地は漂は——終
記せ——終書を書送——るりけ男彼は

の文字とも是もあるとの事れを
多くを遠もるるへきや



環海異聞卷之八終

